

校長室から

人から学ぶ、学び合う



左の写真は2年生の算数の授業の様子の一場面です。 $3 \times 5 = 15$ の計算で、3が5つ集まって15なのか、5が3つ集まって15なのかを数字ブロックを使って考えていました。

答えが2つに割れたので、みんなが一か所に集まってそれぞれ自分たちの正しいという説明をし合っている場面です。

いつからか自分も3が5つ集まることと理解していました。ですが 5×3 でも答えは同じなのでうまく小学2年生に分かるように説明はできません。

このように議論が分かれることを、相手に分かりやすく説明したり、説得したりすることはこれからの社会に出ても、とても大切になります。今年から導入されたクロームブックを使っても、機械相手に説明したり、説得したりする能力をつけることは不可能です。

やはり具体物を中心において操作したり、相手の顔を見ながら、相手にわかるように説明したりする能力は学校での授業でしか身に付かないなあと思えました。

本校でも弱いとされる論理的な思考や明確な根拠をもって自分の考えを説明する力を育成するカギは、このような授業を積み重ねていくことなのかもしれません。

小学校で漢文を習う？！

6年生の国語の授業を見ていると、なんと私が中学校の時に習った漢文の勉強をしているのです。「レ」「二、一」を使って、書き下し文をつくる授業でした。

もちろん「百聞は一見にしかず」「一を聞いて以て十を知る」という簡単なものですが、驚きでした。

教頭先生に聞いてみると、伝統的な言語文化として、音読して言葉の響きやリズムに親しむことをねらいにして令和2年から変わったそうです。

5年生の国語を見ると、伝統的な日本文化としての衣食住についてクロームブックを使って調べる授業をしているところでした。

外国の人から日本の歴史や文化を聞かれて答えられないのは、単に語学上の問題だけでなく自分の中に日本の文化観や価値観が十分に育成できていないことに問題があったのかもしれません。

角山の児童は外国語を1年生から勉強していますが、堂々と日本の文化や歴史も外国語で説明できる人に育ってほしいと思います。

